



WILL生産管理ソフト Ver7

導入要件/推奨ハード 説明書

世界のお客様にモノづくり視点による全工程のソリューションを提供し新たな板金市場を創造する

— 第17版 —

2023年8月18日

(株)アマダ

(株)ケーブルソフトウェア

ハードウェア要件

項目	データサーバ用			アプリサーバ用	クライアント用 (進捗端末含む)	
	クライアント 20台以上 または iP進捗あり (※8)	クライアント 10～20台 (※5)	クライアント 10台未満			
CPU	Celeron以上 (推奨Xeon)	Celeron以上 (推奨Xeon)	Celeron以上 (推奨Core i5以上)	Celeron以上 (推奨Core i5以上)	Celeron以上 (推奨Core i5以上)	
メモリ(※2)	4GB以上 (推奨16GB以上)	4GB以上 (推奨8GB以上)	4GB以上 (推奨8GB以上)	4GB以上 (推奨8GB以上)	4GB以上 (推奨8GB以上)	
ハードディスク	100GB以上 の空き	100GB以上 の空き	100GB以上 の空き	100GB以上 の空き	100GB以上 の空き	
OS (※1) (※6)	Win10 Home 32/64ビット Win11 Home 64ビット	×	×	×	△	○
	Win10 Pro 32/64ビット Win11 Pro 64ビット	×	△	◎	◎	◎
	△WinSvr2012 64ビット(※7) △WinSvr2012 R2 64ビット(※7) WinSvr2016 64ビット WinSvr2019 64ビット WinSvr2022 64ビット (※3)(※4)	◎	◎	○	○	△

(注)Celeron・・・インテル Celeron プロセッサ相当を指します。 Core・・・インテル Core i3/5/7プロセッサ相当を指します。Xeon・・・インテル Xeonプロセッサ相当を指します。

ハードウェア要件

(※1) Win95/98/ME/XP/Vista/7/8/8.1およびWinSvrNT4.0/2000/2003/2008/2008R2は「MicroSoftサポート終了製品」なのでここから除外します。

(※2) 実装メモリはOSやSQL Serverによって異なる為、下記を参考にしてください。

(データサーバ)

- ・最強の構成は、Xeonプロセッサでメモリ32GB以上を搭載したハードウェアに、WinSvr2012 (64ビット)以降とSQL Server製品版(2014以降)を導入したコンピュータです。
- ・SQL Server製品版(64bit)を推奨
SQL Server 無償版(2014Express以降)は、SQL Server使用メモリが1GBに制限される為、メモリを大量に搭載していても利用されません。大容量のメモリを有効活用するにはSQL Server製品版(64bit)が必要です。
- ・64ビットOSを推奨
32ビットOSもアドレス空間の制限上4GB以上のメモリを搭載しても利用されません。4GB以上のメモリを搭載する場合は64ビットOSが必要です。

(アプリサーバ・クライアント)

- ・Win10/11の場合、メモリ4GB以上(推奨8GB以上)。

(※3) サーバOSの場合、通常は標準で5台分のCAL(クライアントアクセスライセンス)が付いています。クライアント接続台数が5台を超える場合、CAL(5台毎:30千円前後)を追加購入する必要があります。

(※4) サーバOSは、「Datacenter」、「Standard」、「Essentials」の3エディションが販売されていますが、弊社では「Standard」以外は動作確認しておりません。「Standard」エディションのご購入をお勧めします。

(※5) Win10/11は20台を超えるクライアントを接続することが出来ません。近い将来クライアント接続台数が20台を超える可能性があれば、最初からサーバOSのコンピュータをご導入頂くことをお勧めします。
ここでいう20台は、Web進捗端末(カシオ製ハンディターミナル)やIP進捗端末(iphone・ipad・ipodTouch)なども含む合計のクライアント接続台数です。
(ただしオフライン進捗端末はカウントしません)

(※6) 32ビットOSか64ビットOSかについて、特に32ビットOSを選ぶ理由が無ければ、拡張可能な64ビットOSをお勧めします。

(※7) MicroSoft社から、WinSvr2012およびWinSvr2012R2は2023年10月にサポート終了する旨アナウンスされています。

(※8) 「iP進捗」と記載していますが、iP台帳ビューワ、iP画像ビューワ、iPタスクビューワ、Web進捗も含まれます。

ハードウェア要件

【ハードウェア購入上の注意点】

- (1) MS Office付コンピュータ(MS Officeプリインストール版)はお勧めしません。
「Microsoft 365 Access ランタイム をインストールしたら、プリインストールのOfficeが消えた。」
という事象が2社で発生しました。
復旧には、MS Officeプリインストール版の再インストールが必要です。
再インストールにはプロダクトキーが必要となります。
(プロダクトキーが無いと再インストールも出来ません)

ソフトウェア要件

項目	サーバ用		クライアント用 (進捗端末含む)
	データサーバ用	アプリサーバ用(編集用)	
Access	—	Access 2016 以降 製品版 (※2)(※5) …有償	Access 2016 以降 ランタイム版 (※2)(※5)(※6) …無償
SQL Server	SQL Server 2014以降 Express(無償版)または Standard(製品版) (※1)(※3)(※4)	—	—
備考	Express(無償版)は、WILL生産管理Ver7インストールDVDに同梱されています。ただし使用可能メモリが1GBという制限がある為に「データやクライアントが増えるとスピードが遅くなる」ことが弱点です。「スピード改善が必要」な場合は、コンピュータの実装メモリの追加(16GB以上)、Standard(製品版)の導入をお勧めします。	Access製品版は、お客様にて調達して頂きます。(※7)	Accessランタイム版はWILL生産管理Ver7インストールDVDに同梱されています。

(※1) 他のアプリケーション用にSQL Serverが導入されているコンピュータにデータサーバを同梱できません。別途データサーバ用のコンピュータをご用意ください。

(※2) Microsoft Office (Access)は32ビット版と64ビット版があります。Ver7では両方に対応しています。お勧めは64ビット版です。

(※3) SQLServerも32ビット版と64ビット版があります。Ver7では両方に対応しています。お勧めは64ビット版です。

(※4) SQLServer2012は2022年7月でサポートが終了しました。サポートが終了した製品での動作確認は行っておりません。ご了承願います。

(※5) Access2013は20年4月にサポートが終了しました。

(※6) Office2016以降のOffice製品が入ったコンピュータにはAccess2016ランタイム版ではなくMicroSoft365Accessランタイムをご利用ください。

(※7) Access製品版とは、Access単体製品、Accessを含むOfficeパッケージ製品、Accessを含むMicroSoft365(旧Office365)製品を指します。

お勧めはAccessを含む「MicroSoft365(旧Office365)」です。

参考 (SQL・OfficeのOS対応表)・・・WILLバージョン関連なし

<input type="checkbox"/> サポート終了		SQL SERVER 製品版/無償版					Access 製品版/ランタイム (※1)					
		2012 SP4(※7)	2014 SP3	2016 SP2	2017	2019	2022	2013 SP1(※5)	2016	2019 (※2)	2021 (※2)	MS365 (※3)
OS	Win8.1 32/64ビット(※6)	×	×	×	×	×	×	△	△	×	×	△
	Win8.1 Pro 32/64ビット(※6)	△	△	△(64)	△(64)	×	×	△	△	×	×	△
	Win10 Home 32/64ビット	×	×	×	×	×	×	△	○	○	○	○
	Win10 Pro 32/64ビット	○	○	○(64)	○(64)	○(64)	○(64)	△	○	○	○	○
	Win11 Home 64ビット	×	×	×	×	×	×	△	○	○	○	○
	Win11 Pro 64ビット	×	×	×	○(64)	○(64)	○(64)	△	○	○	○	○
	WinSvr2012 64ビット(※8)	○	○	○(64)	○(64)	×	×	△	○	×	×	×
	WinSvr2012 R2 64ビット(※8)	○	○	○(64)	○(64)	×	×	△	○	×	×	×
	WinSvr2016 64ビット	○	○	○(64)	○(64)	○(64)	○(64)	△	○	×	×	○
	WinSvr2019 64ビット	○	○	○(64)	○(64)	○(64)	○(64)	△	○	○	○	○
	WinSvr2022 64ビット	×	×	×	○(64)	○(64)	○(64)	△	○	○	○	△(※4)

- (※1) Office (Accessを含む)には、買取型 (Access2019/2021、Office2019/2021Pro等) とレンタル型 (MicroSoft365 (旧Office365)) があります。
- (※2) Office2019/2021 (Accessを含む) は最新OSのみ対応ですから注意が必要です。MicroSoft365 (旧Office365) は旧OSにも対応しています。
- (※3) MicroSoft365 (旧Office365) を指します。Accessが入っていないMicroSoft365 (Microsoft 365 Business Basic等) はWILLでは利用不可です。
- (※4) マイクロソフト公式ページのMicroSoft365のシステム要件にWinSvr2022は入っていません。

しかし別ページでは「WindowsServer2022ではバージョン2302以降のMicrosoft365Appsのみがサポートされています」と記載されています。

- (※5) Office2013 (Accessを含む) は2023年4月にサポートが終了しました。
- (※6) Win8.1は2023年1月にサポートが終了しました。
- (※7) SQLServer2012は2022年7月にサポートが終了しました。
- (※8) WinSvr2012およびWinSvr2012R2は2023年10月にサポートが終了します。